

石川県信用金庫協会との連携～地域金融論講義～

代表者名 ● 青木卓志（経済学部経済学科・教授）

はじめに

経済学部では、特殊講義の一つとして、2020年度より「地域金融論」を提供している。近年、地域主権や地方分権が叫ばれている。これは国が主導するやり方から、地域のことは地域が主体となっていくべきという基本理念に基づくものである。地域の実情に見合った金融サービスを提供する地域金融の重要性もそうした文脈で考えるとわかりやすい。一方で、地域金融は、地域人口の減少、地域経済の疲弊、金融政策による影響、大手金融機関との競争などにより、厳しい経営環境におかれている。

本講義では、こうした地域金融における現状を踏まえ、地域金融の実際の担い手や地域金融のバックアップをする行政等の方々を迎え、現実の地域金融の現状、課題、将来展望に関する示唆を得ることを目的とした講義である。

活動内容

当該講義は、計15回であるが、本学教員以外に、日本銀行金沢支店、財務省北陸財務局、北國銀行等、9つの金融関連機関から講師をお呼びし、実務等も踏まえた講義を行っていただいている。信用金庫に関しても、その重要性に鑑み、本学と連携している『石川県信用金庫協会』に対して依頼し、本講座内で1回の講義を実施してもらっている。毎年、担当していただく信用金庫は異なるものの（石川県信用金庫協会にて選定）、令和5年度は、金沢信用金庫からご担当者をお招きし、信用金庫全体の役割や金沢信用金庫の取組み等をお話していただいた。

成果、結果の考察

本講義は、最終的には、経済学部（経済学科及び経営学科）の1年生～4年生の計155名の受講となり、前年度から大幅に増加した。全ての講義が対面で実施されたこともあり、各組織や担当者の特徴等により、学生も講義に集中できる環境のもと、真剣に話を聞いていたように見受けられた。あくまで参考レベルであり、また、当講義の全体を通じてではあるもの

の、授業評価では満足度が5.2と比較的高評価であったことを踏まえると、こうした機会の提供が学生にとってより良い知識・理解を与えた可能性が推測できる。

今後の課題、展望

地域金融論は、既述のとおり、県内で活躍している様々な金融関連機関から講師を派遣するスタイルであるが、結果、信用金庫の特徴やその重要等、地域産業にとって欠かせない存在であることが、改めて受講学生に認識される機会となっている（もちろん、他の金融機関の重要性も同様である）。こうした実務担当者からの経験に裏打ちされた講義は、大学教員による理論的な内容と絡み合い、より良い理解につながっていると感じている。本学の学生が信用金庫の仕事に興味を持ち、将来的に、信用金庫で働くという選択肢の一助にもなってもらえることも期待するものである。



（参考）上記の写真は金沢信用金庫が地域金融論の講義で使用した資料の表紙である